

Canon

RF

800mm F5.6 L IS USM

1200mm F8 L IS USM

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF800mm F5.6 L IS USM、RF1200mm F8 L IS USMは、EOS Rシリーズカメラ用の超望遠レンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

 **警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズ、またはレンズを付けたカメラを太陽に向けたり、撮影をしたりしないでください。太陽が画面外にあるときや逆光撮影の場合でも、レンズに入った太陽の光が集光し、故障や火災の原因になることがあります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。
- レンズをカメラに取り付けたときは、必ずレンズ側を保持してください。カメラ側のみを保持すると、レンズがカメラから外れて落ち、故障やけがの原因となります。
- レンズをカメラに取り付けて持ち運ぶときは、同梱のストラップをレンズに取り付けて使ってください。カメラ側のストラップを使うと、レンズがカメラから外れて落ち、故障やけがの原因となります。



注意

傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

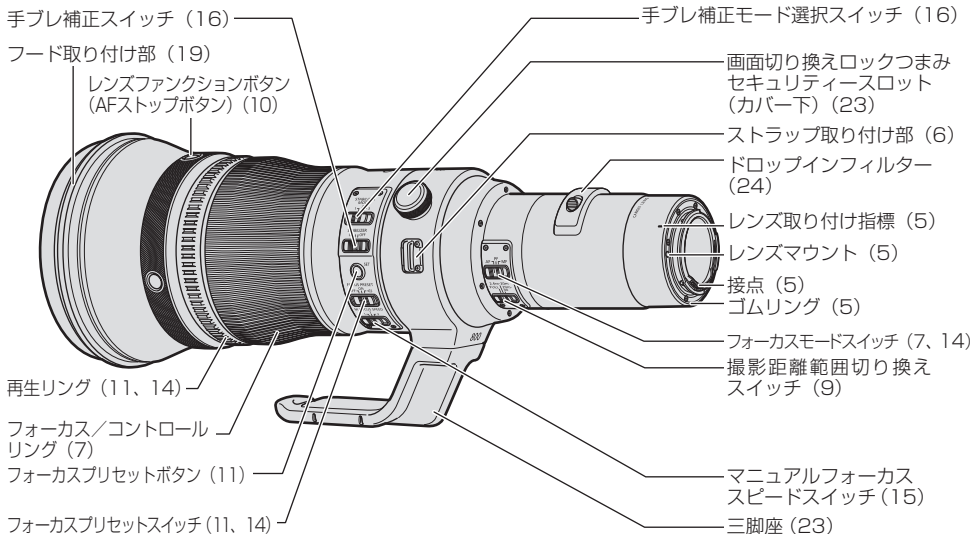
- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れると、やけどやけがの原因となります。
- 三脚または一脚は、十分に強度があるものを使ってレンズの三脚座に取り付けてください。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

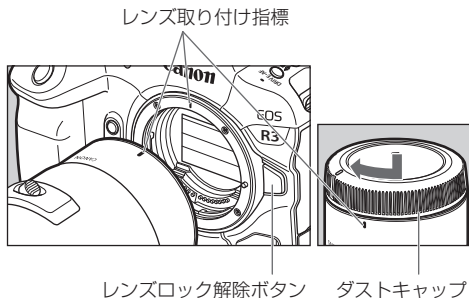
- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

各部名称



- 本使用説明書内のイラストは、RF800mm F5.6 L IS USMをもとに説明していますが、RF1200mm F8 L IS USMとともに、操作部は共通です。
- (**) の**部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

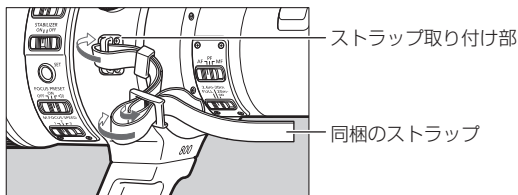
カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。
- 防塵・防滴性能の向上のために、このレンズではレンズマウントにゴムリングが付いています。このゴムリングにより、カメラのレンズマウント周辺に細かい擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題ははありません。

- このレンズはカメラより重いので、レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラ側を回してください。事前に三脚に取り付けるなどして、レンズを安全に自立した状態にしておくことをおすすめします。
- ゴムリングはキャノンサービスセンターで交換できます。(有料)

2. ストラップの取り付け

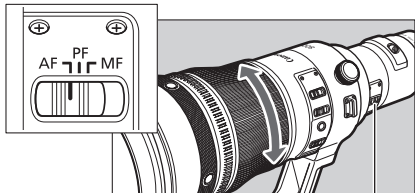


ストラップの先端を、ストラップ取り付け部に通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。ストラップを引っばって、留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- レンズを使う前に、ストラップがしっかり取り付けられているか、消耗（損傷）していないかなど、ストラップの状態を確認してください。

3. フォーカス/コントロールリング

フォーカス/コントロールリングは、フォーカスリング、もしくはコントロールリングとして使うことができます。



フォーカスモードスイッチ

フォーカスリングとコントロールリングの切り換えは、カメラ側で行います。

切り換え非対応カメラ*ではフォーカスリングとしてのみ使うことができます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

* EOS R, RP, Ra, R5, R6

フォーカスリングとして使う

オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチを AF にします。

マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチを MF にし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

パワーフォーカス (PF) については、P14 をご覧ください。

コントロールリングとして使う

コントロールリングの機能はカメラ側のメニューで設定します。シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てることができます。

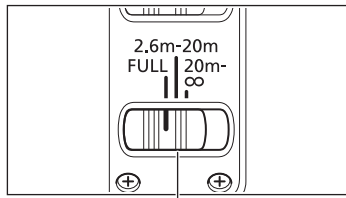
コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

フォーカス/ コントロールリング

- このレンズにフォーカス/コントロール切り換えスイッチはありません。
 - フォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）を急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
-
- このレンズのフォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）は電子式です。
 - 電子式フルタイムマニュアルフォーカス対応のカメラでは、カメラ操作可能な状態で、常にマニュアルフォーカスができます。ただし、カメラの設定変更が必要です。
 - カメラのAF動作が [ONE SHOT] のとき、AFのあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。ただし、カメラの設定変更が必要です。
 - カメラのカスタム機能でAFのボタン設定を“シャッターボタン”以外に変更すると、AF駆動中以外は、シャッターボタンの半押し操作に関係なくマニュアルフォーカスができます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

4. 撮影距離範囲の選択



撮影距離範囲切り換えスイッチ

撮影距離の範囲をスイッチで選びます。撮影距離に応じて選ぶことで、意図しない距離の被写体にピントが合うことを防ぎます。

撮影距離範囲

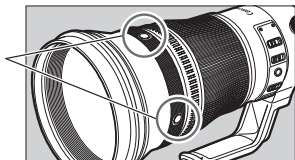
レンズ	切り換え範囲
RF800mm F5.6 L IS USM	FULL (2.6m-∞)
	2.6m-20m
	20m-∞
RF1200mm F8 L IS USM	FULL (4.3m-∞)
	4.3m-30m
	30m-∞

5. レンズファンクションボタン (AFストップボタン)

レンズファンクションボタンは初期状態ではAFストップボタンとして機能します。カメラの[ボタンカスタマイズ]の設定により、他の機能を割り当てることもできます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

レンズファンクション
ボタン (AFストップ
ボタン)



- レンズファンクションボタンの角度位置は、キヤノンサービスセンターで調整できます。(有料)

AFストップボタンとして使う

AF中にAFストップボタンを押すと、AFは一時的に停止し、離すとAFは再開します。

撮影距離を保持したいときや、サーチ駆動を避けたいとき、AFストップボタンを押します。

AFストップボタンを押したままでシャッターボタンを押すと、その撮影距離で撮影できます。

- 主にAF動作が [SERVO AF] のときに便利です。

6. フォーカスプリセット

フォーカスプリセットを使うと、再生リングを回すことで、任意にプリセットした撮影距離にピントを合わせることができます。

フォーカスプリセットを使うときは、フォーカスプリセットスイッチをONまたは(🔊)にします。(🔊)にすると、プリセット時や移動時に電子音が鳴ります。

操作手順により、1点、または2点のプリセットが可能です。

1点プリセット

撮影距離を1点プリセットできます。

<撮影距離をプリセット>

- 1 プリセットしたい距離にピントを合わせます。
- 2 フォーカスプリセットボタンを押し、その距離をメモリーにプリセットします。

<プリセットした撮影距離で撮影>

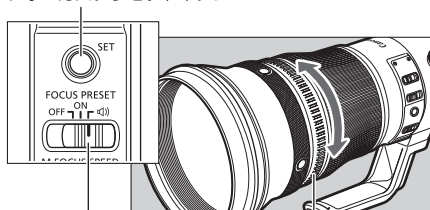
再生リングを左、または右に回すと、プリセットした距離にピントが移動します。

再生リングを回したままでシャッターボタンを押すと、その距離で撮影できます。

電子音【ブザー】の説明

- ・ピッ : 撮影距離をプリセットしたとき
- ・ピピッ : プリセットした撮影距離にピントが移動したとき

フォーカスプリセットボタン



フォーカスプリセット
スイッチ

再生リング

フォーカスプリセット

2点プリセット

フォーカスプリセットボタンを長押しすることで、撮影距離を2点プリセットできます。

<撮影距離をプリセット>

- 1 プリセットしたい距離にピントを合わせます。
- 2 フォーカスプリセットボタンを長押し（1秒以上）したあと、すぐに再生リングを左右どちらかに回し、その距離を回した方向のメモリーにプリセットします。
- 3 同様の手順で、もうひとつの距離をプリセットします。

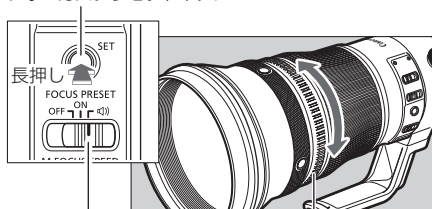
<プリセットした撮影距離で撮影>

再生リングを左、または右に回すと、プリセットした各々の距離にピントが移動します。再生リングを回したままでシャッターボタンを押すと、その距離で撮影できます。

電子音【ブザー】の説明

- ・ピッピッ：ボタンの長押しを検知したとき
- ・ピッ：撮影距離をプリセットしたとき
- ・ピッピッ：プリセットした撮影距離にピントが移動したとき

フォーカスプリセットボタン



フォーカスプリセット
スイッチ

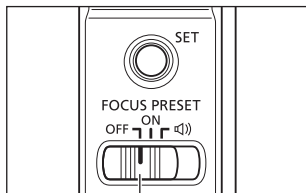
再生リング

フォーカスプリセット

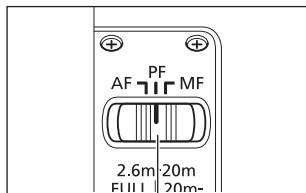
- 2点プリセットの設定で、フォーカスプリセットボタンを長押ししたあと、再生リングを回さないでいると、ピッピッピッと音がしてプリセットがキャンセルされます。そのときは、プリセットの手順を始めからやりなおしてください。
 - 2点プリセットの設定中に、カメラの電源が切れることがあります。そのときは、シャッターボタンを半押しして、プリセットの手順を始めからやりなおしてください。
 - フォーカスプリセットを使わないときは、フォーカスプリセットスイッチをOFFにしてください。
-
- フォーカスプリセットはすべてのフォーカスモードで使えます。ピント合わせの速度は、フォーカスモードがPFで動画撮影のときのみ低速になり、それ以外では高速になります。低速での速度は、再生リングの回す量によって2段階に切り換わります。
 - カメラにレンズを取り付けたとき、フォーカスプリセットの初期値はすべて無限側の端です（無限遠ではありません）。
 - プリセットした撮影距離は、カメラからレンズを取り外すまで記憶しています。

7. パワーフォーカス (PF)

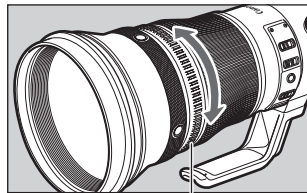
パワーフォーカスを使うと、再生リングを回すことでスムーズなピント送りができます。動画撮影でのピント送りに便利です。



フォーカスプリセットスイッチ



フォーカスモードスイッチ



再生リング

- 1 フォーカスプリセットスイッチをOFF、フォーカスモードスイッチをPFにします。
- 2 再生リングを手で回してピントを送ります。

● パワーフォーカスの速度は、再生リングの回す量によって2段階に切り換わります。

8. マニュアルフォーカス (MF)

マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、マニュアルフォーカスの速度を選ぶことができます。

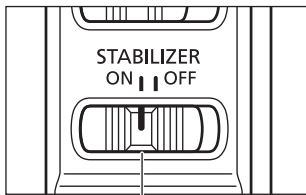


マニュアルフォーカススピードスイッチでマニュアルフォーカスの速度を選びます。
速度は1が最も高速で、以降2、3の順番で低速になります。

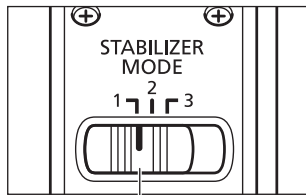
- 細かなピント合わせには速度3をおすすめします。
- カメラの設定で、RFレンズMF操作敏感度が [リングの回転速度に応じて変動] となっている場合、マニュアルフォーカススピードスイッチの切り換えは無効となります。
マニュアルフォーカススピードスイッチの切り換えを有効にするためには、RFレンズMF操作敏感度を [リングの回転量に連動] に設定してください。
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

9. 手ブレ補正機能

手ブレ補正は、手持ち撮影で生じるブレを補正します。



手ブレ補正スイッチ



手ブレ補正モード選択スイッチ

1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正を使わないときは手ブレ補正スイッチをOFFにします。

2 用途、状況に応じて手ブレ補正モードを選びます。

手ブレ補正モード

- MODE 1：全ての方向の手ブレを補正します。
主に静止した被写体の撮影に適しています。
- MODE 2：水平、または垂直にカメラを振ったとき、振った方向と直交する手ブレのみを補正します。
動く被写体の撮影に適しています。
- MODE 3：露光中はMODE 2と同じように手ブレを補正します。
露光中のみ手ブレを補正するため、不規則に動く被写体の撮影に適しています。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。

MODE 1

主に静止した被写体の撮影



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況

MODE 2

動く被写体の撮影



- 自動車や鉄道などの流し撮り

MODE 3

不規則に動く被写体の撮影



- サッカーやバスケットボールなどのスポーツ撮影
- 動物などの撮影

手ブレ補正機能

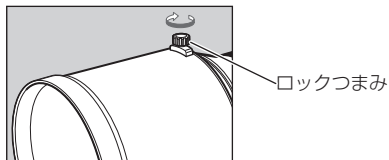
- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 次のような条件では、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
 - ・ 大きな揺れや速い振動のとき
 - ・ MODE 1で流し撮りをしたとき
- シャッター方式の設定を変更できるカメラを使用する場合、手ブレ補正効果を十分に発揮させるために、[電子先幕] もしくは [電子シャッター] の使用*をおすすめします。
 - * EOS Rを使用の場合は、LVソフト撮影の設定で初期設定の [モード1] もしくは、[モード2] を選択するか、サイレントシャッターの設定で [する] を選択します。
- 手ブレ補正スイッチをONにすると、OFFのときより電力を消費します。
- 輸送などの振動で手ブレ補正機構の固定が外れ、「カタカタ」と音がすることがありますが、故障ではなく、使用上の問題はありません。この現象は、一旦レンズをカメラに取り付けると解消します。
- 三脚を使用した場合は、手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。



- カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
- カメラのカスタム機能でAFのボタン設定を変更したときは、変更後のAFボタン操作でも手ブレ補正が働きます。

10. フード

専用のフードは、フレアやゴーストの原因となる不要光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



●フードの取り外し方：

フードのロックつまみを反時計方向に回してゆるめ、取り外します。
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

●フードの取り付け方：

フードのロックつまみを反時計方向に回してゆるめます。レンズのフード取り付け部にフードを合わせ、ロックつまみを時計方向に回してしっかりと固定します。



● フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。

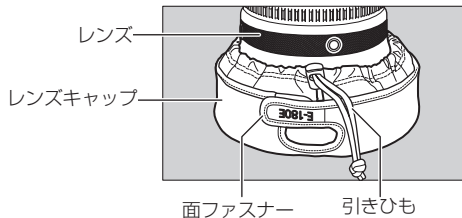
11. レンズキャップ

専用のレンズキャップは、レンズを収納するときや撮影していないときに、衝撃やほこりなどからレンズ前面を保護します。

このレンズキャップは、レンズだけでなく、フードにも取り付けることができます。

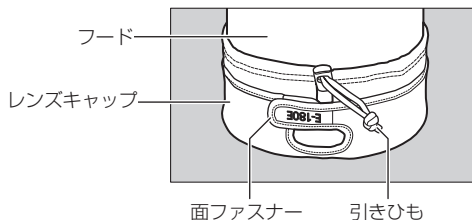
レンズキャップをレンズに取り付けるとき

図のように、レンズキャップを直接レンズの先端（フード取り付け部）にかぶせて取り付けます。容易に外れないように、引きひもを引いて固定します。



レンズキャップをフードに取り付けるとき

図のように、レンズキャップをフードの先端にかぶせて取り付けます。容易に外れないように、面ファスナーと引きひもを使って固定します。

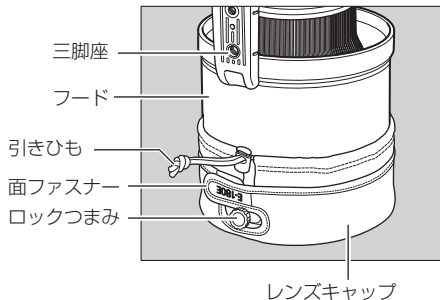


レンズキャップ

レンズを収納するとき

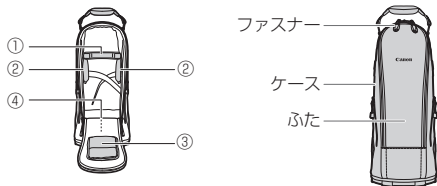
フードをレンズに逆向きにかぶせます。フードのロックつまみと三脚座が一直線に並ぶように、ロックつまみを回してしっかりと固定します。図のように、レンズキャップをフードのロックつまみの位置にかぶせて取り付けます*。容易に外れないように、面ファスナーと引きひもを使って固定します。

* ロックつまみを囲むように、面ファスナーを閉じます。



12. ケース

ケースは、レンズを持ち運ぶときなどに使います。

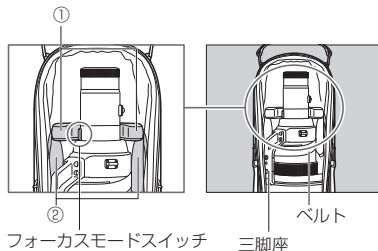


図のように、各クッションをすべてケース内に貼り付けます。

- | | |
|-----------------|----|
| ①クッション (U字形) *1 | ×1 |
| ②クッション (四角小) | ×2 |
| ③クッション (四角大) | ×1 |
| ④クッション (丸形) *2 | ×1 |

*1 レンズのフォーカスモードスイッチの部分をおさえる位置に貼り付けてください。

*2 ケースの底に貼り付けてあります。



レンズの収納方法

- 1 ダストキャップをレンズに取り付けます。
- 2 フードをレンズに逆向きにかぶせてから、レンズキャップを取り付けます。詳しい取り付け方は、P20をご覧ください。
- 3 図のように、レンズをケースに入れ、三脚座が手前左側になるようにします。
- 4 ベルトでレンズをしっかり固定します。
- 5 ファスナーを引いてふたを閉めます。

- レンズを収納する前に、必ずすべてのクッションをケース内に貼り付けてください。
- レンズは、必ず決められた収納方法のとおりに入納してください。

13. 三脚座

三脚または一脚は、レンズの三脚座に取り付けます。

レボルビング（回転）

三脚座の画面切り換えロックつまみをゆるめると、カメラごと回して画面の方向（縦位置、横位置など）を任意に設定できます。

90°ごとの計4か所にクリックがあります。

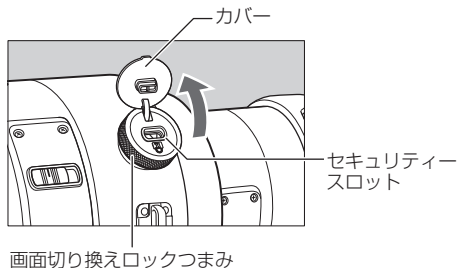
- このレンズは焦点距離が長く、わずかな傾きも目立ちやすいため、画面内の水平を正しく合わせる場合は、カメラ内の水準器を使用してください。
- 三脚座の固定方法は特殊ですので、安全のためにお客様ご自身では交換しないでください。

- 三脚座はキヤノンサービスセンターで、別売の一脚座に交換できます。（有料）

14. セキュリティー スロット

盗難防止のために、このレンズはセキュリティー スロットを備えています。

セキュリティー スロットは、画面切り換えロックつまみのカバーの下にあります。ここに市販のセキュリティーワイヤーが取り付けられます。



15. ドロップインフィルター

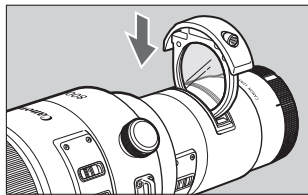
このレンズでは、キャノンドロップインフィルター 52 (WIII) シリーズが使えます。

ドロップインフィルターの取り外し方

取り外しは、両方のロック解除ボタンを押しながら、まっすぐに引き抜きます。

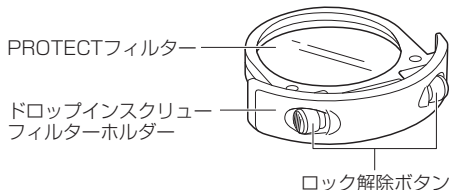
ドロップインフィルターの取り付け方

取り付けは、「カチッ」と音がするまで押し込みます。前後どちらの向きでも取り付けられます。



このレンズには、ドロップインスクリューフィルターホルダー 52 (WIII) とキャノンPROTECTフィルターが付属しています。

市販のレンズフィルターを使う場合は、PROTECTフィルターと入れ換えてください。フィルターサイズは52mmで、1枚のみ使えます。



ドロップインフィルター



- このレンズはフィルターを含めて光学設計されていますので、必ずキャノンPROTECTフィルターか市販のレンズフィルターを取り付けてから、ドロップインスクリューフィルターホルダーを取り付けてください。
- 市販のレンズフィルターは、フィルター枠の厚みによっては使えないものもありますのでご注意ください。



- 別売でドロップインゼラチンフィルターホルダー 52 (WIII)、ドロップイン円偏光フィルター PL-C52 (WIII) が用意されています。
- ドロップインフィルター 52/52 (WII) シリーズも使えます。ただし、外観色がレンズ本体と異なります。

16. エクステンダー（別売）

エクステンダー RF1.4×およびRF2×を使うと、被写体をより大きく撮影できます。エクステンダーを使った場合のレンズの仕様は次のようになります。

レンズ		RF800mm F5.6 L IS USM		RF1200mm F8 L IS USM	
エクステンダー		RF1.4×	RF2×	RF1.4×	RF2×
焦点距離 (mm)		1120	1600	1680	2400
絞り数値		F8-91	F11-91	F11-91	F16-91
画角	水平	1°50'	1°20'	1°15'	55'
	垂直	1°10'	50'	50'	35'
	対角	2°10'	1°30'	1°30'	1°05'
最大撮影倍率 (倍)		0.49	0.71	0.41	0.60

- レンズにエクステンダーを取り付けた後、カメラを取り付けてください。取り外しは逆の手順で行ってください。
- エクステンダーは2つ以上重ねて使えません。

- エクステンダーを使った場合は、制御性を考慮してAF速度を遅くしています。

主な仕様

	RF800mm F5.6 L IS USM	RF1200mm F8 L IS USM
焦点距離・明るさ	800mm F5.6	1200mm F8
レンズ構成	18群26枚	18群26枚
最小絞り	F64	F64
画角	水平2°35'、垂直1°40'、対角3°5'	水平1°45'、垂直1°10'、対角2°5'
最短撮影距離	2.6 m	4.3 m
最大撮影倍率	0.34倍	0.29倍
画界	約206×138mm (2.6m時)	約241×161mm (4.3m時)
フィルター	ドロップインフィルター 52 (WIII) シリーズ	
最大径×長さ	約163×432mm	約168×537mm
質量	約3140g	約3340g
フード	ET-155 (WIII) ET-155B (別売)	ET-160 (WIII) ET-160B (別売)
レンズキャップ	E-180E	E-185C
ケース	LS600	LS1200

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- クローズアップレンズ250D/500Dは取り付けできません。
- 絞り数値はカメラ側で設定します。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品をご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEOSホームページ
canon.jp/eos

キヤノンお客様相談センター
0570-08-0002

(つながらないときは 050-555-90002)

受付時間〈平日/土〉9:00～17:00

(12月31日から1月3日は、休ませていただきます。)

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon